



妙の光

通刊 90号 復刊 70号

2010年7月4日(季刊)

角田山妙光寺 発行

〒953-0011

新潟市西蒲区角田浜 1056

TEL 0256-77-2025

ホタルブルクロ

道端の草むらに楚々とした感じで咲いて、いかにも初夏を思わせる。境内裏手の道路脇のこの花は白だったが、ピンクや両方が混じった色もあり、全国各地で見られる馴染み深い山野草と図鑑にある。

文字通り蛢の季節、子供たちが花の中に捕まえた蛢を入れ、提灯のようにしてその明かりを楽しんだのがその名の由来だとか。

本当にできるのか疑問に思つたら実験した人がいた。「蛢を無理に入れたが花の先を結ぶことができなかつた。ということは、想像だけのネーミングではないか。だが結ぶことはできなくとも、手のひらの上で花びらから透けて見える淡い光はとても美しかつた」とあつた。

祖父の寺ほたるぶくろが屋根に咲く

加倉井秋を

「万灯のあかり」に寄せて

小川英爾

はじめに

最近、人々が寺に関心を持たず、親族の葬式も省略、墓は要らないという声が大きくなり、これを仏教界では「寺離れ、葬式離れ、墓離れ」の「三離れ現象」とか言って問題視しています。経済不況、寺の怠慢、人々の意識変化そのあたりが背景なのでしょうか。

確かに妙光寺でも、古くから続く行事の参加者は減っています。これまでの方たちが高齢化したり亡くなつたりして、次の世代に受け継がれていないのです。でも、新しく始めた研修会、夏のフェスティバル安穏、暮れの除夜の鐘、団体旅行等々には大勢の参加があります。

世代交代ができるのは、昔からの行事が時代に合わなくなつて、寺の吸引力が弱くなつたせいででしょう。でも、妙光寺の雰囲気が大好きと言う方はとても多くいらっしゃいます。そこで、もつと大勢の方に気軽に足を運んでいただくにはどうしたらいいか、ずっと考えてきました。

その一つが安穏廟をきっかけにした毎年8月の「フェスティバル安穏」です。安穏廟関係者だけでなく、從

来の檀信徒も、村の近所の方たちも一緒になつて、「生老病死」という誰もが避けて通れない大問題を、寺で深刻にならずに考えようという趣旨でした。当初はねらい通り、幅広く色々な方たちが集まり、今も現役で98歳の映画監督、新藤兼人さんをゲストに老いをテーマに語り合つこともあります。このとき新藤監督から「この辺りにはすごい人生を生きて来た人たちがたくさんおられますね。いい話がいっぱい聞けた」と仰つていただきました。

しかしこれも20年が過ぎて、いつしか「安穏廟の人たちの祭り」と言われるようになり、檀信徒は特定の方たちだけの参加になつています。昨年初めて参加された50代の檀徒夫婦が「楽しかったあ。私たちも来ていいんだね」と言われたことで、20年を機にもう一度原点に戻したいと考えたのです。

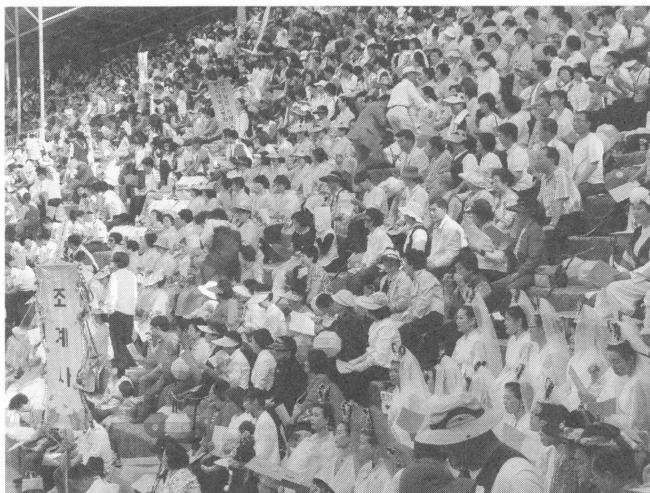
そこで昨年秋から、スタッフとして裏方を務めてきた安穏会员、総代を始めとする檀徒役員が一緒になつて10回余りの会議を重ねてきました。その結果、妙光寺を縁にした人たちが等しく生き人を偲び、今を生き

る様々な人の繋がりを確認し、共に生きる力を得る場にしたい。そのため、「あかり」をメインにして、感激を共感できる形を作ろう、となりました。

韓国の花まつりで

韓国では今年は5月21日が、旧暦でお釈迦様の誕生日を祝う「花まつり」の祝日でした。その日は信徒がそれぞれのお寺にお参りしますが、首都のソウルでは各宗派が一体になって、前の土日に記念行事を盛大に繰り広げると聞き、参加してきました。

二日間にわたり市内各所で賑やかで楽しい催しが沢山あります。



スタンドに一杯の人

市中心部に近い曹渓寺の前では広い車道をふさぎ、百以上のテントが整然と並んで各寺や、外國の仏教が出店風に座禅の

陽も傾いた午後6時に法要が終了、ここからがメイ

紹介、太鼓の叩き方、軽快な音楽に合わせたお経、お

菓子、冷麺の

ふるまいまで。

交差点では特

設ステージで民族芸能から

太鼓、タッピング等々、

若い人たちが延々と夜まで

演じ、路上は人が一杯でした。



電気飾りで華やかな山車

ンの提灯行列です。アナウンスに従い順番に会場を出るのですが、全て出るまで一時間以上は要したでしょう。ここから6キロ先の曹溪寺前まで、手に手に提灯を掲げて上下6車線の車道を一杯になつての行列です。寺ごとに2～3百人の集団が、電気で華やかに満艦飾の山車と、音楽隊や合唱隊が大音響とも言える賑やかさで先導します。なかには衣の姿で軽やかに踊るお坊さんもいて、驚きました。後で聞いたところ、このときの提灯は棒の先に2個ついて、10万本の口ウソクの灯による全行程約3時間のパレードです。ディズニーランドの光のパレードも凌ぐかという山車と人の列を、沿道一杯の人が拍手で迎えてくれます。すごい



提灯行列

仏教とあかり

闇夜を照らす一筋のあかりは、私たちに安心と希望を与えます。同様に、お釈迦様の教え（仏法といいます）は、暗く落ち込みがちな私たちの心に安らぎと希望を与えますとして、あかりに例えられてきました。その意味で、仏教とあかりはとても縁が深いものです。

日本仏教の母とも言われる比叡山延暦寺には「不滅の法灯」と言って、1200年間消えることなく守り続けられてきた灯明があり、永遠に伝えられるお釈迦様の教えを象徴しています。同じ意味で、お寺の住職が交代するのを、「法灯を継承する」という言い方をし、「法燈繼承式」とも言います。

お釈迦様が亡くなられる直前に遺された遺言とも言える最後の説法が、「自灯明、法灯明」としてよく知られています。お釈迦様の滅後、あなた方は自分自身を

い！の一語に尽きる、韓国仏教徒パワーでした。（来年のソウルの花まつりに、お寺の参拝を含めて計画中です。ご一緒しませんか。）

昨年春は台湾の寺に泊めていただきました。偶然その日が春の万灯会の最終日で、夜の本堂前広場に集まつた沢山の信者と灯した無数のロウソクのあかりの見事な様子を思い出し、あかりに寄せる人々の思いの強さを痛感しました。

灯明とし、法（教え）を灯明にして修行に励みなさい。それは自分と他人は違う人間だから、他人の道を気にせず、自分自身にふさわしい道を歩みなさい。そのときに支えとすべきは、これまでお釈迦様が説かれた教えですよ、と言う意味になります。

私たちが日常お参りするときのロウソクも同じく、闇夜を明るく照らすお釈迦様の教えを象徴しています。灯明ですから昔は油に浸した芯を灯しましたし、現代なら電球でも構いません。またお葬式では紙で作った物ですが、松明たいまつを住職が振ります。これも冥土（あの世）への道は暗くてひとり寂しいから、迷わないよう明るく照らす道筋を、お釈迦様の教えを頼りに進みなさいとの意味があります。

「貧者の一灯」と言う言葉はご存じかと思います。お釈迦様が在世中、ある村に説法に来られることになりました。村中の人々はこぞって油を買い求め、火を灯してその場にお供えしました。ある貧しい老婆は自分も灯明をお供えしたいと思ったのですが、お金がありません。そこで自分の髪の毛を売つてお金を工面し、一つだけ灯すことができました。お釈迦様の説法の途中一陣の風が吹き、その場をあかあかと照らしていた燈明が全て消えてしまったのですが、貧しい老婆の一灯だけが消えなかつた。たとえ貧しい者のわずかな一灯でも、その心が尊いことを称えるお話です。

日蓮聖人のご命日

は10月13日です。各

地の日蓮宗寺院では毎年、その遺徳を偲び「御会式」と呼ぶ

法要を営みますが、その前夜に「万灯」

という桜の花の造花にあかりを灯した大きな飾りを持つてお寺にお参りします。

なかでも東京の池上本門寺は、現在もこ

の夜だけで10万人が

集まります。賑やかな鉦、笛、太鼓のリズムのなかで、江戸の火消しの纏まといを振り、華やかな万灯が次々と繰り出す様子は江戸時代から「本門寺の御会式」としてつとに有名です。ちなみに桜は日蓮聖人が亡くなられた折り、時ならず庭の桜が開花したとの逸話によります。



「お会式」の万灯

お盆のあかり

お盆のあかりと言えば、13日夜に精靈をお迎えするために玄関先で芋殻を焚く迎え火。そして16日夕方に

は送り火を焚きます。妙光寺の墓参りは8月1日ですが、地元角田浜の人たちは13日夕方です。お墓参りした後、浴衣姿の幼い子供が持つ提灯に火を灯してご先祖様を家まで導く、そんな光景も少子化や車社会でとても少なくなりました。迎え火、送り火もマンションや現代の住宅事情では難しく、風情ある風景が消えていきます。7月の東京のお盆で、下町の送り火を見た時はなぜか胸が熱くなり見入ってしまいました。

全国に知られた送り火は何と言つても京都の大文字焼きです。16日夜8時、大文字山の中腹に赤々と燃えあがるのは有名です。あまり知られていませんが、他に「左大文字」「鳥居形」「舟形」「妙法」の四つあり、「五山の送り火」と言います。妙法は南無妙法蓮華經のお題目のことで、この火を日蓮宗の涌泉寺の檀信徒が境内で、太鼓に合わせて日本最古と言われる「盆踊り」とともに守り伝えています。同じように各家庭ごとの送り火を、地域が共同で海辺や山上で行うことも各地に残るそうで、いずれも精霊の帰り道を明るく照らすという意味があります。

妙光寺の送り盆

そもそも火は仏教に限らず、世界中の宗教はじめあらゆる場面で人間に暖かさと安らぎを与えてきました。囲炉裏の火、暖炉の火、野外での焚き火の火を思い浮

かべてみてください。同じ火を囲んだ人同士なぜか話が弾み、心通いあう氣がするから不思議です

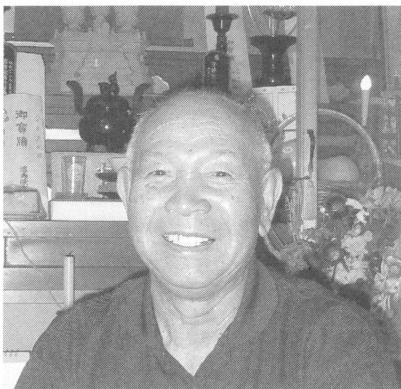
このたび「杜の安穩—池の上」を新たに開設しましたが、これが他の墓地とやや離れた位置にあります。そこで、従来の墓地も含めてそれぞれのお墓が一体感を持つて繋がり、今を生きる方々もやがて同じ地に眠るご縁を確認する。そして今は亡き人と遺された私たち、さらに同じ世界を共に生きる全ての人たちとの絆をあかりの帶で結びあうことを探ります。

人が共に養うと書いて「供養」の漢字ができるいると言われます。人と人との支えあい養いあうことが供養です。昨今は誰にも知られずに亡くなる孤立死が年間三万人を超し、「無縁社会」と言う言葉も聞かれる時代です。一方で、大名や地主など特定の一族だけの菩提を弔うこと目的にした閉鎖的な寺も、歴史的にありました。しかし現代の寺は、もっと幅広くより多くの人との繋がりを築くことが求められています。人が紡ぎあう社会の一翼を寺が担い、その寺を人々が支える、その象徴とも言える『万灯のあかり—妙光寺の送り盆』にしたいと願っています。



村の鍛冶屋さん

新潟市角田浜 安藤 勇次郎さん（76歳）



安藤さんは鍛冶屋として60年の腕を誇る。妙光寺でも岩屋のロウソク立に賽銭箱、ご判様に立てる幟旗の台座の金具、客殿案内板の台座等々数えきれない品々を作つてもらつた。

メジャーホルトで駆け付けてくれる。

業が機械化されていないから、クワやスキ、牛が引くゴロの歯、さらには鉈から包丁まで作つたり修理したりした。年季奉公が明けると千葉の工場で、裁しばさみ、剪定ばさみを作る職人として働いたが、母親の病気のため2年で家に戻つた。その後近くにあつた碎石工場で数年働き、自営で10年間、当時は悪路で壊れやすかつたダンプカーのスプリングやラジエターの修理までやつた。その後、腕を見込まれて町の大手建設会社の溶接工として21年間勤務、14年前に定年退職した。

自宅の仏壇は昨今の仏壇店の既製品でなく、家を新築した際に住職の設計で、昔のように間口一間の作りつけにした。それだけ大きな御本尊と仏像が納まるという、職人のこだわりでもあつた。

現在は長男夫婦と孫の6人暮らしが、難病で寝たきりとなり、以来昨年1月に亡くなるまで13年間、ヘルパーさんの手を借りながら自宅で、食事をつけた。當時は農家の親方に弟子入りして身につけた。

現在は長男夫婦と孫の6人暮らしが、縁あって北九州に嫁いだ長女家族が遠いのが寂しいという、家族思いの安藤さんもある。

年秋にはその遺骨の一部を抱え、お寺の団体で念願だった本山の身延山参りを果たすことができた。30歳のとき母親の遺骨を抱えて参拝して以来、45年ぶりだつた。

キヨミさんを看取つて以降は時間

が経つて、日課の畑仕事と朝晩のお

仏壇参り、そして寺の行事参加を欠かさない。「身延山に行って45年ぶり

の七面山登山は体力の衰えを感じた」と言うが、まだまだかくしゃくとしてその器用な手先も健在で、時折近所から持ち込まれる鍛冶屋の仕事を現役で難なくこなす。

退職1年前から妻のキヨミさんが難病で寝たきりとなり、以来昨年1月に亡くなるまで13年間、ヘルパーさんの手を借りながら自宅で、食事をつけた。當時は農

寺の動き

一日研修会と月例信行会

一日研修会を3月27日に開催しました。以前は一泊二日だったのですが、参加しやすいようにと今回から日帰りにしました。地元檀信徒、県内外の安穏会員、世代も30代から70代まで、親子が1組31名もの参加がありました。



お経練習



数珠の持ち方からの研修

に夫婦が4組、男性11名と女性20名の内訳です。

日程は9時に集合してお抹茶を飲みながら簡単な自己紹介。開会式の後、午前が太鼓練習や基本の動作の実習と、住職の講義。昼食をはさんで午後からお経の練習と唱題修行。閉会式をへて3時半に解散しました。

次回は秋の一日研修会として、11月21日(日)の予定で、詳細は次号でお知らせします。

「研修ということで少し緊張気味で構えていましたが、部屋に入るなり思ひがけずお抹茶のおもてなしに感動いたしました。ちょうど昨年よりお抹茶に興味を持ちお茶会に参加を始めたところでした。

ほっと気が楽になつたところでその後の基本実技のお経も説明も集中して楽しく習うことができました。日頃信心が足りなくて申し訳なく思つており

ましたが、その一部です。

「初めての研修会に参加させていただき、気持ちの上でも一日ゆつたりとした気持ちになり、またこのようない研修がありましたら参加させていただきたいと思います。ありがとうございます」

「二度目の参加でしたが、忘れていることが多くとても勉強になりました。現在時間にゆとりが無く(夫の介護)すべてに出られませんが、できる限りいろいろ教えていただきたく願っています。御前様の素晴らしいお経の声に心が救われます。また、いい仲間に出会えて幸せです」

ますが、唱題から灯明、鳴り物、包み物、供養、法要とそれぞれにすべて教えや意味があることを改めて教えていただき大変勉強になりました。有難うございます。そして心のこもったお昼の美味しかったこと！

お寺の研修であることを忘れてしもうほどでした。お陰さまで本当に充実したここちいい一日でした。感謝申し上げます。今後も都合のつく限り参加させていただきたいと願つております。準備やお手伝いの方々に心よりお礼申し上げます】

●月例信行会のご案内

以前から「お寺の集まりが毎月でも参加したい」という声があり、始めるきっかけを考えていきました。数年前までは「お講」と言って、地区ごとに檀徒宅を会場に持ち回りで毎月ありました。しかし現在は高齢化のため、毎月継続しているのは巻地区だけです。

そこでいわば「寺でのお講」として、

毎月第1日曜の朝に月例信行会を開きます。そのきっかけとして春の一日研修に参加された方たちに声をかけて、



お粥の朝食

(日) 毎回朝7時から

●初めて雨の「ご判さま」

3百年は続いてきたと言われる伝統行事の「ご判さま」を、4月29日催しました。この日は降っている雨も止むといわれるほどで、事実現住職も30数年間全て晴天でした。しかし今年初めて雨が降り、山門からの稚児行列も中止して本堂だけでの法要になりました。



稚児音楽大法要

雨の中でしたがいつもながらに、妙光寺の檀徒さんはじめ県内各地の寺の

檀の方々2百名以上がお参りください、お説教、水行、音楽大法要にと一日を過ごされました。地元角田浜、そして当番の曾根・升湯地区の檀徒の皆様にお手伝いお礼申し上げます。

●池の鯉復活

三重塔前の池に放した錦鯉の稚魚が、今年の冬サギに襲われ全滅したと思われました。ところが春になつて半分近い数の稚魚が現れました。橋の下か深みに隠れて難を逃れたのでしょうか。食欲も旺盛で、人が近づくだけで水面が盛り上がるかと思うほど集ってきます。

「訓練でもしているんですか?」と尋ねられたほどで、お参りの家族連れも大喜びです。

こんなメールも届きました。「悠久と塔の周りを泳ぐ鯉の群れ、安らぎを感じます。澄みきった空と、小さな風、私に聞こえた遠くの鳶。ひと時の休息」一檀徒。

●コンサート2回

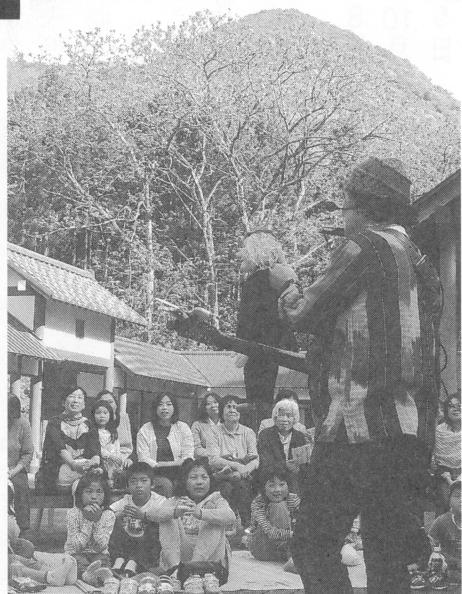
この春は2回のコンサートを開きました。3月はモンゴルの馬頭琴でホーミーを唄う岡林立哉さん。独特な裏声を使つた歌は、広いモンゴルの大草原を思わせる雄大さがありました。5月には『たかはしひん』さんが県内でのコンサートの途中に寄つて、境内



馬頭琴とホーミー

●安穏廟増設完成

予てから計画の安穏廟増設ですが、市役所の許可が下りて3月1日着工、6月末完成で工事が進行中です。名称を『安穏廟・杜の安穏—池の上』としました。許可面積の制限上今回は136区画の受付ですが、最終的には240区画の予定です。1年以上前から待機の方を始め、予約申し込みが50件を超えていました。また先般、朝日新聞、



新緑に囲まれた院庭での『たかはしひんさん

時会議が開かれます。

今年度の定例役員会議を6月11日に開催、会計事務所からの書類を基に前年度の会計収支報告と活動報告、今年度の計画と予算案、安穏廟の事業計画等について協議いただきました。また、新しい形式になる夏の送り盆行事、予算の見通しの立たない参道整備計画、3年後の創立7百年記念事業等議題が多く、協議が長時間にわたりました。

役員会議

週刊朝日、週刊現代、日経新聞で相次いで紹介されたこともあります、問い合わせも続いています。

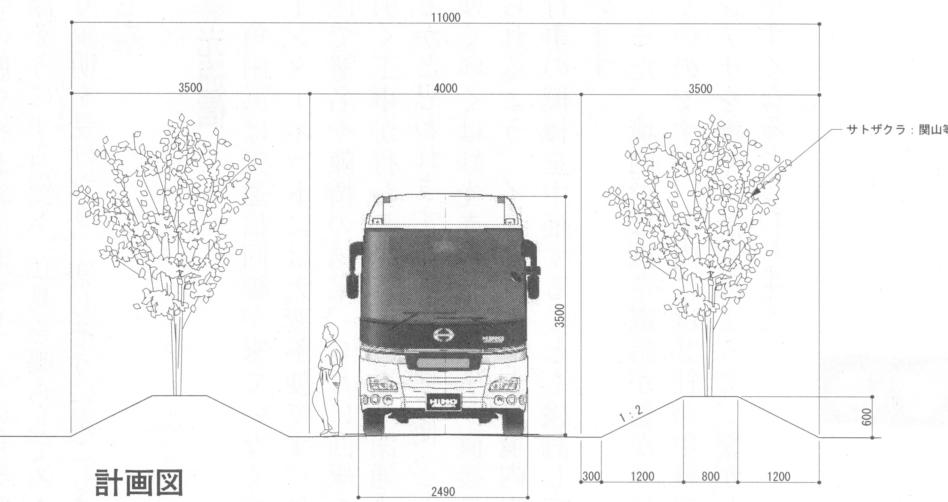
妙光寺は各地区の檀徒から選出された現在22名の役員が協議し運営しています。この中から互選で総代、会計監査を選出します。役員任期は3年、再任はありますが75歳で定年です。年度当初の定例会議と、その他必要に応じて臨



完成した『安穏廟・杜の安穏ー池の上』

参道整備計画

市道から駐車場、山門に至る入口の道路が分かれにくく、しかも変形で特



に大型車の通行に支障があり、さらに未舗装で雨天の際の排水にも困っています。そこへ先般、入口の角に隣接する土地を所有者から依頼があつて百坪弱ですが購入しました。これを機に道路の位置の移動と拡幅、さらに歩道を設けて墓参の際の事故防止と、桜（樹種は検討中）並木にして参道に相応しい景観に整備したいと計画中です。

市道ですが工事費は妙光寺が負担し、後の維持管理は行政が行うことで区役所の同意を得ました。そのためには排水側溝や雨水浸透性舗装など、市の基準に合った工事が必要で、距離も150mに及び、道路工事費だけでもかなりの額です。さらに、桜並木の予定ですが景観整備費が必要です。しかし完成すると風景が一変します。

現在計2百万円のご寄附を戴いています。引き続きご協力を願いし、資金の工面を検討します。

●ボランティア

お寺の作業をボランティアいただきましたボランティア。春に2日間、境内の清掃作業をご協力いただきました。夏場の

作業は大変なので、秋の落ち葉掃きにお願いします。また、縫物作業では6人からお申し出をいただきました。夏の法要で使う略式の袈裟を縫っていたいっています。ご協力いただける方を引き続き募集中です。

●小学校の校外学習

近くの越前小学校の5、6年生が校外学習で訪れました。永石上人が妙光



仏具に興味津々の子供たち

寺の歴史やお経の話をし、その後興味深そうにするので、仏具を鳴らしてみたり説明を受けたり、楽しそうに過ごしました。

●光通信

角田浜は光通信回線が来ていなくてインターネットには大変不便です。地区で署名や陳情の結果、6月に回線を引く工事が行われました。近々開通するかと思われます。この回線を使って、ゆくゆくは妙光寺の今の様子が直接見られるよう、インターネットで境内や行事の模様を中継することも検討しています。

また、境内では携帯電話が繋がりにくいのですが、年内には2社が中継アンテナを増やす計画のようで、繋がりやすくなると思われます。



各種ご案内

●年会費をお願いします

檀信徒会費、安穏会費をお盆までにお願いします。世話人のいる地区は世話を伺います。それ以外の方には振替用紙を同封しましたので、お近くの郵便局から送金されるか、妙光寺受付にお持ちください（振替用紙もお忘れなく）。事務処理の都合で振込先口座が「妙光寺檀信徒会」名です。また銀行、コンビニでの振込希望の声もありますが、手数料が高額で現状では困難です。ご理解ご了承お願ひします。

●お盆のご案内

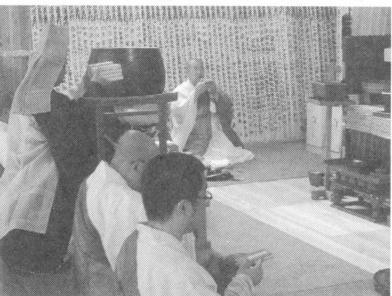
・お盆の墓参りと施餓鬼法要

賑わう墓参風景

妙光寺では8月1日がお盆の墓参りです。朝6時から10時ころまで、個々のお墓の前での読経をお受けしています。安穏廟の場合も同様です。7～8名の僧侶が水屋のあたりに待機していますので、直接声をかけて依頼してください。

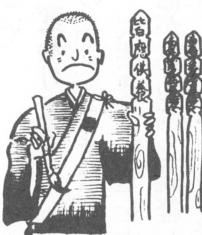
10時半から安穏廟合同法要、11時から本堂で施餓鬼法要と新盆法要です。施餓鬼とは、欲望に駆られ餓鬼の世界に墮ちた母親を救つたお釈迦

亡き人への供養の気持ちを表す高さ180センチの板（塔婆）に戒名またはお名前を書き、それを施餓鬼法要で上げします。卒塔婆は法要中本堂に全て並べ、その後

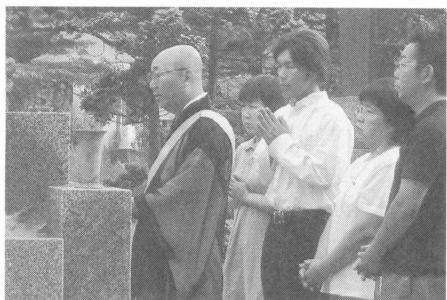


塔婆を並べた施餓鬼法要

●卒塔婆供養



今年は日曜で混雑が予想されますので、早めのお出かけをお勧めします。お盆礼、志、年会費、おとき申込み等の受付所は客殿玄関です。時間帯によって混雑してお待ちたせします。係の人數を増やして対応しますが、10時前においてになるなど、



墓前での読経

様のお弟子の話に由来します。これが旧暦の7月に亡き人を迎えて親族が共に過ごすお盆の始まりといわれ、あらゆる生き物に施して救う供養の意義を伝える仏教行事となりました。

今年は日曜で混雑が予想されますので、早めのお出かけをお勧めします。お盆礼、志、年会費、おとき申込み等の受付所は客殿玄関です。時間帯によって混雑してお待ちたせします。係の人數を増やして対応しますが、10時前においてになるなど、

もお盆が終わる16日まで立てて置きます。お申込みは世話人か、遠方の方は会費案内にあるはがきでどうぞ。

●新盆法要

昨年のお盆後に亡くなられた方は新盆ですので、直接お知らせします。本堂に個別に位牌を安置し、ご供養しますのでご家族でお参りください。また今年から新盆の精靈供養に提灯を用意しました。別紙ご案内をご覧ください。

●お盆棚経 8月初旬～16日

住職と鎌田、永石、お手伝いの成川上人の4人で全檀徒宅のお盆お棚経に伺います。旧新潟市内、県内遠方のお宅はご連絡の上で8月初旬から。近隣のお宅は従来の日程ですが、予定を知りたい方、留守になるお宅は10日過ぎに電話ください。

●「万灯のあかり—妙光寺の送り盆」

●参加申込みは不要です

別紙でご案内のように、5千個のあかりで精靈を送り、今を生きる私たちが交流する場です。事前の参加申し込みは不要です。参加費としてはいただきませんが、運営協力のため入口で大人ひとり5百円程度のお志をお願いします。夜の交流会も予約は不要で、お酒おつまみ持ち込み自由。売店があり、そこで飲み物やお食事をお求めいただけます。無料送迎バスはお帰りのときだけ、会場

で予約ください。
●法要の形が変わります

昨年までの「フェスティバル安穩」の形式での法要が変わります。大法要は本堂を中心に行い、その前後に式衆の僧侶が墓地内を読経して回ります。同時に安穩廟の敷地内ある東屋で、「常経」と言つて僧侶が交代でお経を読み続けます。そこでは隨時、埋葬者の名前を読み上げる回向を受け付けします。

●献灯が各種あります

総数5千個に及ぶあかりに、あなたのあかりをお供えください。

一、メッセージ灯籠

1基2千円。高さ30センチの灯籠に、申込者のお名前と故人へのメッセージ、祈りの言葉を書き境内で灯します。事前の申込み順に限定3百基、はがき、FAX等でお申し込みください。代金は年会費と一緒に、郵便振替でお願いします。

二、回向・祈願灯籠

高さ13センチの特製カップロウソクに、お名前、祈りごと等を書いて灯します。当日会場受付です。



三、迎え火・送り火

一組5百円。高さ9センチの特製カップロウソクで、13日夜の「迎え火」用と、28日の当日会場で灯す「送り火」用がセットになっています。お申込みいただきますと、地区の世話人か13日前に妙光寺からお経に伺う際にお届けします。それ以外の方は妙光寺受付にてお分けしています。

四、新盆提灯 一張り5千円。新盆の精靈の供養に、高さ50センチの提灯に戒名または俗名を墨で書いて灯します。8月1日のお盆法要から本堂にさげ、28日当日は東屋の常経所に灯します。ご自宅にお持ちになり、お盆期間中灯すこともできます。準備の都合上7月25日までにお申し込みください。

●秋以降の予告

・お会式は住職三人トーク

日蓮聖人のご命日の法要を「御会式」^{おえしき}といいます。今年は10月3日(日)に計画していますが、法要の後でスペシャルな「住職三人トーク」を行います。岩波新書のベストセラー『寺よ、変われ』の著者、日本で一番元気なお坊さんと言われる松本市神宮寺の高橋卓志さん。50代前半の若さで京都を代表する文化人のひとりと言われる、京都東山法然院の梶田真章さん。そして小川住職の三人が語り合います。こんな機会はありません。詳しくは次号でお知らせしますので、ぜひご予定ください。

・生前に戒名を

戒名は仏さまの弟子になつた証ですから、生前につけるのが本来です。戒名をいただいて、その後の自分の生き方を戒めるという意味があります。日蓮宗では法のいみ名として法号と呼びます。

菩提寺の住職が仏さまに代わつてお授けするものですから、その寺の檀徒にしかおつけしません。代々続かなくて、また夫婦のひとりだけでも、個人につけるものですから問題ありません。これまでの8回で100人以

上の方が受けられました。

希望の文字をお聞きします。費用は3万円で、お名前と法号を金糸で刺繡した檀信徒用袈裟と、数珠を記念品として差し上げます。

今年は10月3日(日)午前9時集合。1時間半の研修を受けていただき、11時から御会式の法要中に行います。昼食をはさんで午後は「住職三人トーク」を聞き、午後3時ころ解散です。

詳細はお問い合わせください。説明書を送ります。

・韓国花まつりツアーア

来年の5月の話ですが、韓国ソウルのお釈迦様誕生日を祝う花まつり参加の団体旅行を計画します。パスポートの準備等もありますので、早めの予告です。

・創立7百年

妙光寺はの創立は正和2年、西暦で1313年と伝えられますから、3年後の2013年で7百年目を迎えます。記念行事の案については検討中ですが、基本は檀信徒、安穩会員皆さんを中心でお祝いしたいと、考えています。

・「中野亘」陶展

新潟市の出身で京都で修業、現在滋賀県に工房を持つ陶芸家の妙光寺三回目の作品展です。期間は10月1~11日。



フェスティバル安穏が生まれ変わります

安穏廟の埋葬者への合同供養と、安穏会員、檀信徒、地域の人たち相互の生前からの交流を目的に、毎年8月末「フェスティバル安穏」を開催してきました。平成2年に始まって以来昨年で20回を数えました。

このたび新たに「杜の安穏—池の上」

を開設しましたが、位置がやや離れていてこれまでの法要の形が困難になってしまふこと。また参加者が固定化の傾向にあって、妙光寺に縁あるすべての人たちの交流という目的が薄らいでいます。これらを解決するため安穏会員、地元角田浜檀徒で構成するスタッフが再三の会合を重ね、21年目を機に新しい形で再スタートすることにしました。

私たちの祈りと願いをあかりに込め
る、というのが第一の趣旨です。付隨

事前のスタッフも、当日に全国、さらには海外から集まるスタッフも皆さん交通費、経費までも自前のボランティアです。パンフレットのデザイナーも同様です。さらに今回の出演者もすべて、妙光寺が好きというご縁の友情演出なのです。かかる経費は皆さんの献灯と参加志、それに安穏基金の運用益でまかなつてきました。ところがその運用益がリーマンショック以降の世界的な不況で大幅に目減りして、拠出金にも限界があります。そんな限られた予



算の中でいかに参加される方々に喜んでいただか、一所懸命に取り組んでいます。初めてのことでのことで、事前準備にも当日も手違いがあろうかと思います。ご理解とご協力を願いします。

21年前の第1回のフェスティバル安穏でも、法要で千本のロウソクを灯しました。この模様を中心に翌日NHKテレビの全国ニュースで放映され、さらにいくつかの番組にもなって、以来昨今の墓や葬儀が変わる議論のきっかけになりました。この第1回目に参加され、インタビューまで受けたのが水戸市在住の岩間ハルエさんです（写真）。先日ご主人の法事に来られ「私ね、20回皆勤です。今年も楽しみだわ。足が丈夫なうちは来ますからね」と、本当に嬉しい言葉をいただきました。



どうぞお誘い合わせ、ひとりでも多くの方々の参加をお待ちしています。

「この世でがんばりましょう」

小川なぎさ



いかと思っています。心配事のない穏やかな世界はどこにあるのでしょうかね。

境内の池の睡蓮が咲いています。周りの木々や草花と一体になつて、角度によつてはモネの絵画の世界のようですが。モネは自分の美への想いのために、

フランスシルベニーに自ら庭を造り絵画を描き続けた画家です。いつか行つてみたい場所のひとつです。夢のような庭なのでしょうね。

なんという映画か忘れてしまいましたが、その映画の音楽に「ネッラ・ファンタジア」という歌があります。

空想の中で、僕は正しい世界を見るそこでは、すべてが平和で正直に生きている
魂の夢は、空に浮かぶ雲のように、いつも自由で
心の底には人間味があふれている

とても美しい曲で心がふるえるようにドキドキするのです。

最近の私は奥の仕事が多くなりましたが、毎日元気に暮らしています。前号で更年期が・・・と書きましたらいろいろと教えてくださった方がいらして、本当にありがとうございました。

自分のことを考えられるようになり大分体調は良くなりました。そして疲れたたら美しいものをみたり綺麗なことを考えて気持ちを落ち着かせるようにしています。

私はといふと、この現実の社会の中で心を打つステキなものを日々の糧にしながら俗っぽく生きていくことを望んでますが、空想の世界のようにみんなが幸せになれる社会がくるように祈りつつ、奥の仕事でがんばります。

夏の終わりの送り盆にはお出かけください。極楽浄土のようなお祭りになります。それでは暑い夏がやつてきます。お気をつけてお過ごしくださいね。

行事案内



関東地区お盆参り 7月初旬

関東地区の檀信徒宅にご連絡のうえ住職が伺います。

お盆墓参り、施餓鬼法要、新盆供養 8月1日（日）

午前6時～10時～墓前でのお経受付。10時半～安穩廟法要。11時～本堂で施餓鬼法要と塔婆供養、新盆供養。12時～お斎。午後1時～法話。
お斎等のお申込みは当日受付でどなたでもどうぞ。

お盆棚経 8月初旬～16日

旧新潟市内、県内遠隔地はご連絡の上で8月初旬から。近隣は従来の日程ですが、
予定を知りたい方、不在の方は10日以降に電話ください。

岩屋七面宮祭礼 8月19日（木）

午前10時半～本堂にて法要とお加持。その後岩屋に移動して法要。お昼に赤飯
のご供養があります。

万灯のあかりー妙光寺の送り盆 8月28日（土）

詳細はパンフレットをご覧ください。

秋彼岸会法要 9月23日（水・祭）

午前10時半～安穩廟法要。11時～彼岸会中日法要。12時～お斎。午後1時～住
職の法話。

あとがき



梅雨空の下、如何お過ごしでしょう
か。今年は梅雨入りが遅れて、本当に
爽やかな日が続く六月でした。「境内
の緑がきれい。風が気持ちいい。一年
中こんな陽気だといいのにね」なんて
言葉がお参りの方々と交わされました。
今回もお伝えしたいことが多くて、
盛りだくさんな内容です。じっくり読
んでいただければ幸いです。ことにお
盆とリニューアルの送り盆、秋の予告
もあります。ぜひお出かけください。
色々ありすぎて事務局も混乱気味です
が、一所懸命にやっています。ご不明
の点は何なりと電話等で気軽にお問
い合わせください。

梅雨入りが遅れた分、あけるのも遅
れるとの予報があります。くれぐれも
お体に気をつけて、夏の暑さの本番に
備えてください。

小川